

コラム「ブラジルの素顔」

「普通は〇〇だよな」という考え方が、なかなか通用しないのがブラジルです・・・

2021年3月

三井住友銀行 加藤 巖

「ブラジルの“普通”って何？シリーズ 第4弾 / 嗚呼ブラジル、ブラジル研修からの学び その2」

社会人デビューをした翌々年の1989年から約1年間、サンパウロ州の北方にあるミナス・ジェライス州の州都ベロ・オリゾンテ市に、研修生として派遣されました。研修ミッションは州立カトリック大学の聴講生をしながら、州立開発銀行で実地研修を受け、語学・文化等を経験して無事に帰国することだ、と説明を受けました。その言葉を真に受けた脳天気な社会人3年生が“伸び伸び”と研修生活を始めた訳ですが、当時の生活から大小のブラジル・ヒントを得ていた気がするので、その一部をご披露させて頂こうと思います

さて今回は前号に引き続きの第2弾です。

同じ時期にベロ・オリゾンテ市にいた研修生は他の銀行から1名、損害保険から1名だけでした。このメンバーに2社の総合商社駐在員2名を加えた合計5名で夕食をご一緒させて頂き、毎日のように情報交換をしました。そういえば空港に迎えに来てくれたのは確か他社研修生でした。私も離伯する直前に着任した損害保険会社の研修生の住居等の面倒をみたことを思い出しました。会社間の垣根が低い、大らかな時代でした。

【ゴルフ場】

前号でゴルフクラブ持ち込みの話題に触れましたので、まずはゴルフ関連です。

研修を受けていたベロ・オリゾンテ市にはゴルフ場、テニスコート、プール、レストラン、バーベキュー場等を併設した会員制スポーツクラブが旧市街から車で40分程離れたところにあっただので、会員になりました。

と、ここまで書くと、夢のような生活じゃん！となりますが、ご安心(!?)ください。当時のブラジルはまだまだゴルフ人口も少なかったことから、そのスポーツクラブも同様にあまりゴルフ設備に力が入っておらず、ゴルフ場は9ホールしかなく、しかも芝が殆ど生えていないようなゴルフ場でした。そのゴルフコースのフェアウェイからボールを打つときに、ボールの手前の地面を先に打ってしまう、所謂「ダフる」というミスショットをすると、火花がでるラウンドでした。

これは決して漫画の一コマではなく、火花には理由があったのです。ミナス・ジェライス州は鉄鉱石を中心とした鉱物資源が豊富に産出される、ブラジルでも有数の州で、欧米系企業を中心に鉄鋼産業周辺への投資も盛んなのです。このゴルフコースのメンテナンスをするグリーンキーパー(地面キーパー?)からは「このコースは鉄成分が混じっている大地の上にあるのさ！」と自慢げなコメントを聞かされました。思えば、鉄の質はいざ知らず、素人がみても地面が赤く、鉄が混じっていることを容易に想像できるほどでした。なんと資源豊かな国なのでしょう。嗚呼、ブラジルです。

【金融】

当時は弊行もペロ・オリゾンテ市に支店を構えていたことから、当然ながら毎月の給料は自分の所属する銀行口座にて受け取っていました。しかし先輩研修生からの引継ぎにより、ペロ・オリゾンテ支店の目の前の道路を渡った場所で営業していた別の銀行に口座開設をして、給料日に全額送金をして生活をするようになったのです。その理由は、弊行が広大なブラジルで僅か4カ店しかなかったことから、小切手の認知度が皆無に等しく、特に旅行等をして別の州などで小切手を使用しようとした場合に受け取り拒否をされてしまうリスクを回避することでした。加えてその銀行には一定金額を口座に預金しておけば当時のインフレ率よりも高い利回りが得られる運用商品があったからでした。

そうです！！漫画とかテレビとか、夢の世界でしか見たことがないような「使っても、使っても」残高が減らない口座が現実社会に存在したのです！！なんと不思議な金融商品がある国です。

嗚呼、ブラジルです。

次は小切手の扱いです。これがまた日本の「普通」とは大きく違いました。

小切手というのは、代金決済等の場合に現金の代わりに使える有価証券の一種で、大きさは海外旅行等でかつて多くの日本人が使用した旅行小切手(トラベラーズチェック)と同程度でしたが、ブラジルの小切手の場合は使用時(振出時)に口座名義人の署名に加えてアラビア数字と文字の併記が必要でした。しかしポルトガル語が苦手だった当時の私にとって、アラビア数字の金額をポルトガル語として文字で併記することが難しく、百、千、万、十万等の綴りをメモして常に携帯していました。常にその「虎の巻」のような紙を見ながらポルトガル語で金額を書いていたわけですが、インフレーションが進むことで桁が多くなりがちだったこともあり、残念ながら多くの書き損じが発生しました。

通常、小切手を書き損じた場合は新たな小切手を使用するのが普通でしょうが、当時のブラジルでは「ぐちゃぐちゃ」と間違えた個所を塗りつぶして、その近くに文字を書き直していました。しかもその小切手がちゃんと流通して、決済されるのです。融通が利くという聞こえはいいですが、基本的には柔軟性の高い国です。

恐るべしブラジルです。

無論、研修生からの「生の報告」として東京の本部に連絡していました。

現在では珍しいことですが、当時は弊行も海外で個人のお客さまの口座対応をしていました。従って日本と同様に日々の業務が終わった後で、支店にある現金勘定が正しいことを確認する現金検査をしていました。ペロ・

オリゾンテ支店ではその現金検査に加えて、副支店長の机の中にあつた拳銃の弾数の突合検査をしていました。

つまり発砲したか否かを確認していたわけです。そういえば支店の入口にはマシンガンを抱えた守衛もいました。当時からやはり治安対策には苦勞をしていたということです。

嗚呼、ブラジルです。

私が研修生をしていた時代はインフレーションが激しい時で、国際通貨基金のホームページで調べたところ、1989年のインフレ率は年率1,430.72%、1990年のインフレ率は年率2,947.73%でした。所謂ハイパーインフレの時代ですが、そのインフレを身近に体験できた一例はタクシーでした。

当時のブラジルのタクシーには日本のタクシーにも設置されているような走行距離と時間によって数値が表示される機械式メーターがあり、不思議なことに、その機械の横には「紙」がぶら下がっていました。

毎月、連邦政府なのか州政府なのか、いずれにせよ官である誰かが発行していた仰々しいマークがついた「紙」は実は「換算表」であり、機械式メーターで表示された数字をベースに支払うべく料金を決めていたのです。

しかし当時はインフレが激しかったので、その「換算表」が頻繁に差し替えられていて、正直なところ、私は車内に備え付けられている「換算表」が適正な「換算表」であるのか、時期がずれていないか、偽物なのかの判断が付きませんでした。混乱です。

嗚呼ブラジルです。

【社会・文化関連】

政治・社会や経済等の情報はテレビや新聞が情報源になっていることが一般的でした。庶民は街のあちこちに点在する Banca de Jornal、通称バンカと呼ばれるコンビニエンス・ストアのような所謂新聞雑誌販売店で新聞を購入するわけです。しかも少額にもかかわらずクレジットカードか小切手で。(笑)

一般的にバンカでは各種雑誌、新聞は勿論のこと、筆記用具、お菓子、スナック、サッカーの応援グッズ、CD、DVD、電池、絵葉書、携帯電話のプリペイドカードから水やビール等を扱っています。とはいえ、ほぼ全店が個人商店なので商品のラインアップはバラバラであるし、道端や公園にあるバンカの建物も一定の規則性や規律はありません。なんとも不思議な「なんでも屋バンカ」の存在です。

日本にあるようなコンビニエンス・ストアがなかなか浸透しないことの一つの理由がこの、庶民の極めて身近に存在するバンカの存在でしょう。

嗚呼ブラジルです。

【為替】

さて最後に為替について。

真面目な若き研修生だった筆者もブラジル人同様にダウバ家から数十メートルしか離れていないバンカに頻繁に通って、馴染みの店主との会話を通して地域周辺の情報を聞き出して、新聞や雑誌も買っていたわけです。その新聞ですが、今の物理的な新聞には多分掲載はしていませんが、新聞各紙にブラジル中央銀行が発表する為替欄が必ずあり、Cambio Comercial 公定レート(Comercial=商業)、Cambio Turismo 旅行者レート(Turismo=観光)、Cambio Negro 闇レート(Negro=黒/後に Paralelo=並行)の3種類が毎日公表されていました。

「闇レートって・・・表に出したら闇じゃない・・・」と思ったことを今でも鮮明に覚えています。
嗚呼、ブラジルです。

加藤 巖 (かとう いわお)

1987年上智大学外国語学部ポルトガル語学科卒業。同年住友銀行(現三井住友銀行)入行。
89-90年ブラジル業務研修生(Minas Gerais 州立カトリック大学聴講生)、東京営業部、
国際審査部、JCIF国際金融情報センター出向、ブラジル住友銀行(現ブラジル三井住友銀行)、
グローバル・アドバイザー一部等を経て、2016年9月からブラジル・サンパウロに駐在して主に
日本企業の持つニーズへの対応及びM&Aのソーシング/アドバイザー業務に従事。
2019年4月末に再びグローバル・アドバイザー一部に帰任、中南米におけるビジネス展開に
対する各種アドバイザー業務に従事中。

「中南米における自国通貨のドル化の背景とその実効性/アルゼンチン」

(国際金融情報センター／大蔵省委託調査)

「変動する世界の金融・資本市場(アルゼンチン)」(金融財政事情研究会)

「日本企業がブラジルと上手に付き合うために必要なこと」(日本ブラジル中央協会)

「新ブラジル事典／第4章:金融業」(ブラジル日本商工会議所編)、等の執筆多数。

「特集ブラジル経済と不動産市場の行方」(AREAS不動産証券化ジャーナル/2016年31号)対談。

ブラジルの情報交換会 CdNB 日本ブラジル・クラブ(Clube do Nipo-Brasileiro)を共同主宰。

日本機械輸出組合主催「ブラジル進出支援セミナー」

播磨国際協議会主催「ブラジル経済情勢」

上田市3商工団体共催「海外展開セミナー」セミナー講師多数。